



これは本当に起きている事なのかと、思わず目を疑いたくなるような光景がニュース番組で流れていました。地震による津波が街や田畑を襲う映像にしばらく声も出ない状態でいましたが、自然と自分に何か出来る事はないか、被災者の方々の役に立ちたいと強く思うようになっていました。同僚隊員との会話の中でも「災害派遣に行って貢献したい。」という言葉が飛び交う中で、私は松島派遣航空施設隊第2作業隊の一次要員として指名を受け光栄に思い、

3月12日（土）18時頃、松島基地へ向かいました。

被災地が近づくにつれて、地震の影響で道路が隆起し、山の向こう側には大きな煙が見えてきました。松島基地に着いたのは、小松基地を出発して約18時間後でした。松島基地に到着し、とても自衛隊の基地とは思えない悲惨な状態に強い衝撃を受けました。

災害派遣での私の任務は、基地機能の復旧のため、土砂や瓦礫の撤去が主な作業内容でした。大きな重機が使用されていましたが、私たちは重機の手が届かない場所の土砂や瓦礫の撤去を手作業で実施しました。水も電気も無く、寒さや余震の続く中、頼みの綱の携帯電話までもが使用できない状況に不安で心細い気持ちになってしまったのですが、被災者の方々はもっと大変な思いをしているのだと心に言い聞かせながら作業にあたりました。その結果、約1週間の作業を通して、避難所へ届ける支援物資を載せた輸送機が離発着できるまでの基地機能を取り戻すことができました。

今回の災害派遣に従事して、間接的ではありますが、私も被災者の方々に少しでも貢献できたのではないかと改めてやりがいを感じました。また、機会があるのであれば、被災地の早い復旧のため、災害派遣に参加したいと思います。

最後にお亡くなりになった方々に深い哀悼の意を捧げるとともに、被災地の方々に心よりお見舞い申し上げます。